

III 氷期の狩人は黒曜石の山をめざす

広原湿原と広原遺跡群の考古・古環境調査

これまで、中部高地黒曜石原産地の利用は、旧石器時代を通して浮き沈みが激しいことを紹介した。重要なことは、この背景に気候の寒冷化や温暖化が人の動きを直接決定するような単純な環境決定論が存在しなかったことである。人と黒曜石のダイナミクスは、気候寒冷化のインパクトによる行動制約、おそらく様々な社会的要請からと思われる高山帯への進出と積極的な文化的適応、資源利用集団の地理的な再編成などを要因とする歴史的な変化として理解する必要がある。

ところで、旧石器時代を通して最も利用頻度の高い黒曜石原産地は中部高地であった。これは、各地の集団の遊動領域が、中部高地を折り返し地点として交錯していたからだと考えられる。では、中部高地原産地での黒曜石獲得の実際はどのようなものだったのか。黒曜石の山をめざした狩人たちはどのような痕跡を原産地に残しているだろうか？ こうした質問に答えるために、共同研究「ヒト資源環境系の人類誌」では、広原遺跡群の第Ⅰ遺跡と第Ⅱ遺跡を発掘し、考古・古環境・化学分析の学際研究を行った（図14）。

1. 広原湿原に人が来て遺跡を残したとき、まわりはどのような環境だったのか？

中部高地黒曜石原産地をとりまく古環境分析を行うため、トレンチとボーリングで堆積物を採取した広原湿原の周囲には、旧和田村が1990年代に実施した分布調査で、旧石器時代～縄文時代の遺跡が分布していることが分かっていた（男女倉遺跡群分布調査団1993）。また、最も重要なこととして、広原湿原の堆積物の花粉分析が行われており、年代は不明ながらも針葉樹を中心とした寒冷な時代の花粉帯が確認されていた（酒井・国信1993）。これらの成果をもとに、COLSは第Ⅰ遺跡～第Ⅶ遺跡を新たに区分し、発掘で人の活動の内容を明らかにし、いまだ欠落の多い中部高地の先史時代編年の解像度を上げること、また、黒曜石獲得をめぐる人の具体的な行動や原石獲得領域の復元を目的に第Ⅰ遺跡と第Ⅱ遺跡を2011～2013年にかけて発掘調査した（本書第2部・第3部も参照）。

詳細は小野ほか編2016、小野編2019を参照）。

COLSによる発掘調査で得られた後期旧石器時代から縄文時代にかけての広原遺跡群の考古編年と広原湿原で得られた過去3万年間の景観変遷の年代を対比したのが図15である。

最古の活動痕跡は、推定3.4万年前の局部磨製石斧と台形様石器を伴う石刃石器群である。広原第Ⅱ遺跡4層石器群と呼んでいるが、既に見たように3.0万年前を遡る広原湿原の古環境データは不明であり、現状では人の活動と環境を対比できない。しかし、4層石器群は、後期旧石器時代前半期前葉の黒曜石獲得をめぐる人の行動について豊富な情報を提供することになり、次節で紹介するように具体的な黒曜石獲得領域の復元に成功した。一方、広原第Ⅰ遺跡では、土層中に3.0万年前の始良-Tn火山ガラス（AT：図4参照）が塊で含まれているのが肉眼でも確認でき、このAT下

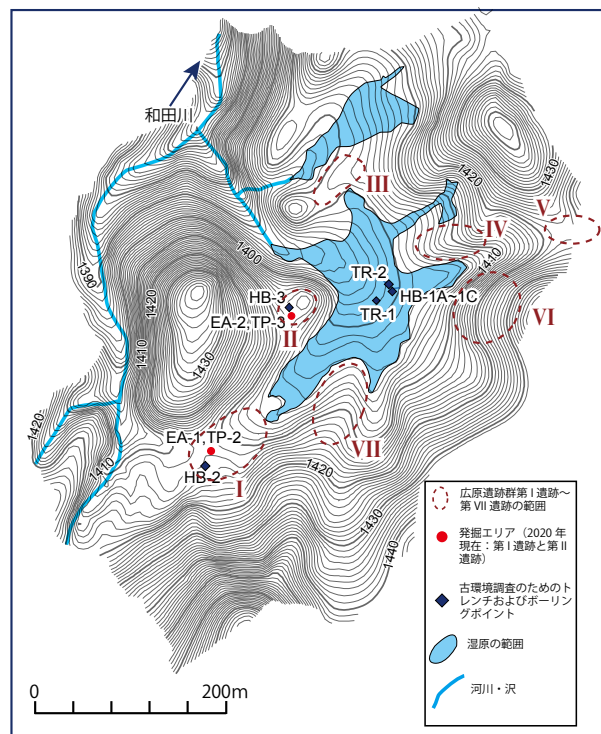


図14 長野県広原湿原と広原遺跡群

第Ⅲ遺跡～第Ⅶ遺跡の実態は、試掘調査のみため不詳である。本書第2部も参照。小野ほか編（2016）より作成。

位の土層から数点の石器が発見されている。

広原第Ⅰ遺跡で発見された尖頭器石器群は、後期旧石器時代後半期後葉に編年され、ちょうど最終氷期最寒冷期（LGM）にかかる高山帯景観に残された遺跡で

ある。先に紹介した大規模な尖頭器製作址である鷹山遺跡群のS地点と近い時期の遺跡であるが、尖頭器の最終的な仕上げや形のメンテナンスが行われた短期滞在地と考えられる。広原湿原では、泥炭の堆積はまだ

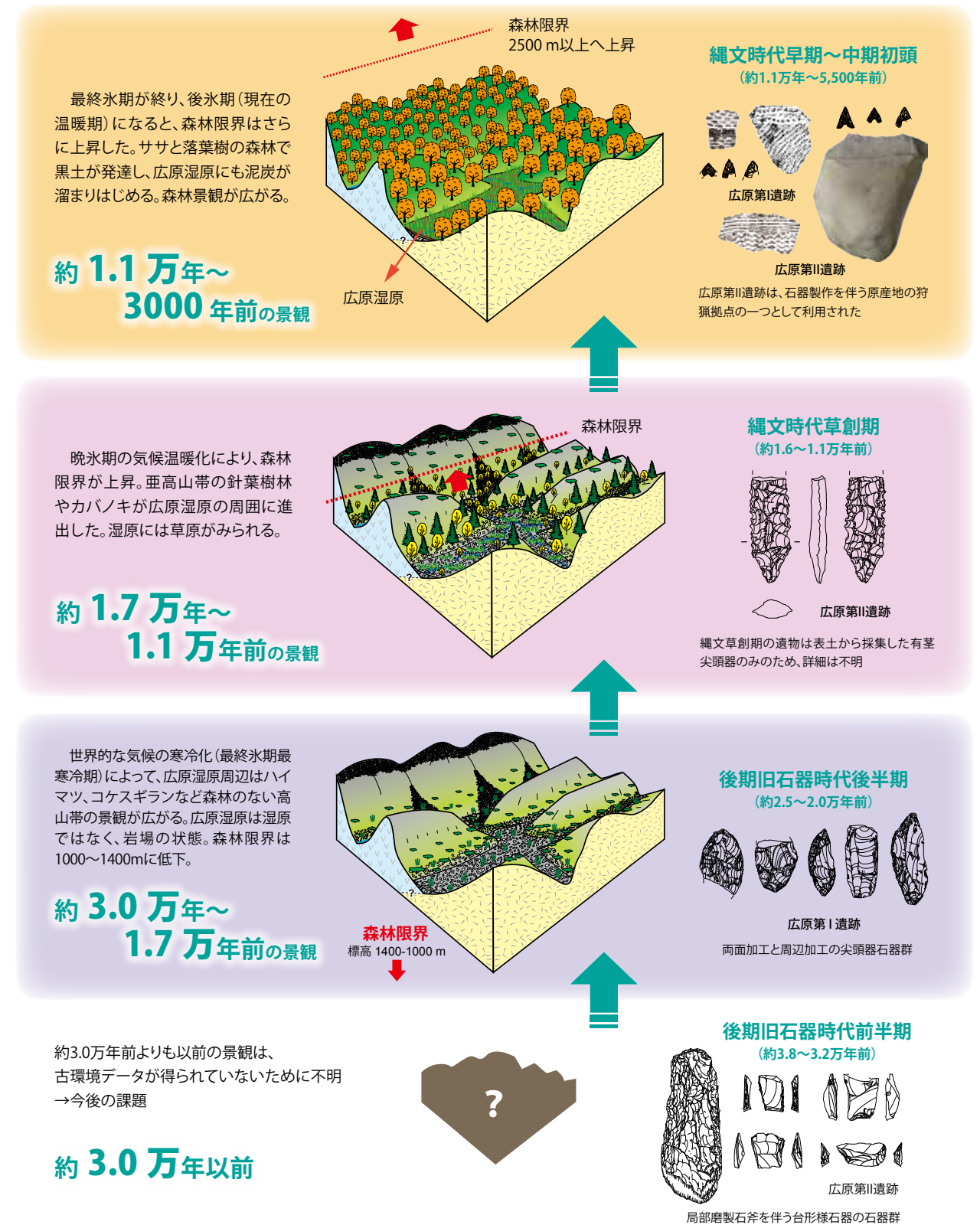


図15 広原湿原の古環境変遷史と広原第Ⅰ遺跡・第Ⅱ遺跡の考古編年の相関関係

出土遺物については本書第3部を参照。橋詰ほか（2016）、吉田（2016）、小野編（2019）より作成。



EA-2 最大の剥片（1,963.7 g）出土状況
中央区。東から。広原 3 次調査（2013 年）。



黒曜石集石 2 の検出状況
中央区 4b 層。広原 3 次調査（2013 年）。



黒曜石集石 1 の検出状況
南区 4a 層。北から。広原 3 次調査（2013 年）。



黒曜石集石 1 の検出状況
南区 4a 層。北から。広原 3 次調査（2013 年）。



黒曜石集石 2 の検出状況
中央区 4b 層。西から。広原 3 次調査（2013 年）。



黒曜石集石 2 の検出状況
中央区 4b 層。南西から。広原 3 次調査（2013 年）。



敲石の出土状況
西区 4a 層。東から。広原 3 次調査（2013 年）。



透閃石岩製局部磨製石斧の出土状況
西区 4b 層。南から。広原 3 次調査（2013 年）。



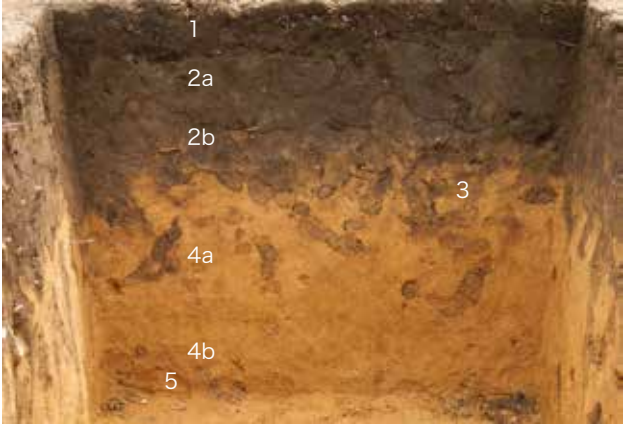
黒曜石集石 2 の検出状況
中央区。南西から。広原 3 次調査（2013 年）。



EA-2 中央区と黒曜石集石 2 の出土位置
北から。広原 3 次調査（2013 年）。



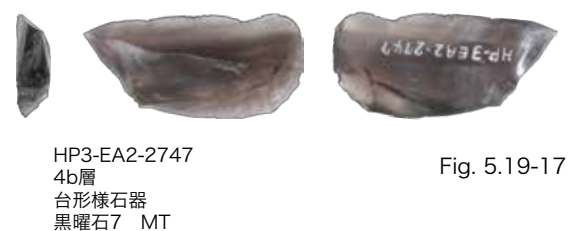
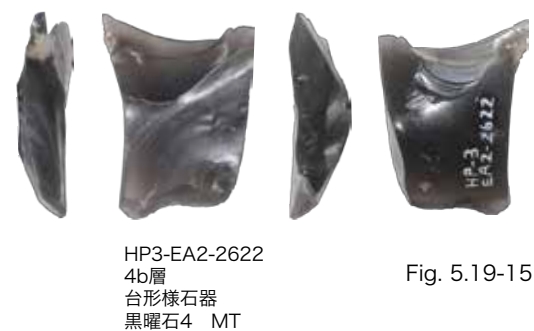
透閃石岩製局部磨製石斧の出土状況
西区 4b 層。北から。広原 3 次調査（2013 年）。



EA2 の土層堆積
南区南壁。広原 3 次調査（2013 年）。

図版 15 広原遺跡群第Ⅱ遺跡第 2 発掘区 (EA-2) の発掘調査 (5)

図版 16 広原遺跡群第Ⅱ遺跡第 2 発掘区 (EA-2) の発掘調査 (6)



図版 37 広原遺跡群第Ⅱ遺跡 EA-2 : 4a・4b 層出土の後期旧石器時代の石器 (2)



図版 38 広原遺跡群第Ⅱ遺跡 EA-2 : 4a・4b 層出土の後期旧石器時代の石器 (3)